

平成30年度第1回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：平成30年5月12日（土）午前9時30分から午後4時

場 所：つくば市ゆかりの森

テーマ：春の林にはどんな花が咲いているのかな

講 師：福田良市（環境省自然アドバイザー）

参加者：45名

当日の天候は晴れで、気温も上昇して前日までの肌寒さはなく、快適な状況で行われた自然観察会でありました。

観察会を開始前に「私たちも自然の一員です。自然を壊さないようにそっと覗いてみましょう。」という自然観察の姿勢や、観察の方法として五感を使うこと、むやみに植物などを採らないこと、地元の人に迷惑をかけないことなど自然観察のルールについて確認しました。

次に講師の福田先生の指導により、昆虫館北側の林縁から植物観察を行いました。ドクダミや黄色い花を咲かせたヘビイチゴは、よく知られた植物なので、参加者の方から名前の声があがりました。五感を使っての観察では、サルトリイバラの茎を触り棘があること、ウドやミツバの茎を折って臭いを嗅いでみました。また、ナルコユリとホウチャクソウは似ている植物であるが、ナルコユリは茎に稜があり丸くないこと、ホウチャクソウは茎が枝分かれていることで区別することを学びました。

林の中に移動し、木にキツタが絡みついているのを観察しました。そこで、キツタには吸盤があり、これで木にくっつきながら登っていること、木に登るのは、木の上の方が光を多く受けられ、成長に有利なことを知りました。植物の葉に変な模様があるのを発見。それは小さなハエの仲間であるハモグリバエが葉に卵を産み、その幼虫が葉の表皮の間の組織を食べて移動した痕でした。

午後は昆虫館南側の林を中心に観察を行いました。フタバアオイがあり、地面間際に目立たないように咲く、釣り鐘型の花を興味深く観察しました。また、このフタバアオイはギフチョウの幼虫の食草であり、飛来するギフチョウを産卵するために植栽されていることが話されました。

参加者、特に初めての参加者にとって、身近な林の中にも多くの植物が存在していることを知り、また、植物と昆虫の関係を知り、有意義な一日であったようです。

また秋に同じ場所を訪れ、春と秋の平地林の違いを観察する予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

観察した主な植物

ハルジョオン、ヌスビトハギ、ジュウニヒトエ、オオバコ、ツルスズメノカタビラ、ウグイスカグラ、ガマズミ、タラノキ、エゴノキ、ニワトコ、アマチャズル、アケビ、フジ、ノブドウ、ゼンマイ、コウヤワラビ、ノキシノブなど、その他に茸、地衣類

環境活動推進課 腰塚昭温

以下に当日の写真の一部を掲載します



林内での観察の様子



木についたツタを観察
上はツタの吸盤



ホウチャクソウ



フタバアオイ



釣り鐘状のフタバアオイの花



ノキシノブ



葉の裏につく胞子嚢



ハモグリバエの食痕



自然観察の様子